生研ニュース

『第41回』自動制御研究會

三月四日午後一時から，中央大會議室で開催．來會者五十名に近く，極めて盛況であつた．第二部高橋教授司會の下に，下記のような研究發表，文献紹介，その他があり，討議や意見の交換もなかなか活潑であつた．運營の事務的な面も整備され，配布のプリントなど，統一した型式で，相當立派である．幹事の諸君の御苦勞もさぞやと察せられる．

誰でも氣易く意見を出し，話題を提供するといつた，極く輕い雰圍氣になるよう，司會者は氣を配つている．決して固苦しくはしたくないというのが念願であるから，自動制御に多少とも關心のある向きは，氣輕に參會されるよう主催者側では希望している．

1. 研究發表：「ダンピングを假定した特性線圖より制御の良さを推定する一方法」東大生研　増淵氏
2. 文献紹介：早大藤本氏，東大生研高橋氏，同鴨井氏
3. 話題：「自動制御用語に關する一私見」日立今尾氏

なお山武計器加古氏より“Non Bleed Air Bulb”の呈示と説明があつた．　(27. 3. 11)　(T.N.)

テレビジョン研究委員會に

星合・高木・森脇・菊池各教授，齋藤助教授參加

テレビジョン放送の實現も間近に迫つてきたので，わが國のテレビジョン技術の向上を目指して，各大學，製造會社，電氣通信研究所，NHK 等の各研究機關が協同して，緊急な技術的問題を研究するため，昭和26年末にテレビジョン研究委員會を結成した．委員長は丹羽保次郎氏（電機大學長）で，次の4分科會を設けている．

第1分科會（電子管關係）主査　星合正治
第2分科會（回路關係）　〃　阪本捷房（工學部）
第3分科會（中繼關係）　〃　森田清（東京工大）
第4分科會（色彩テレビ）　〃　高柳健次郎（ビクター）

各分科會では2月中旬第1回會合を行つて，研究を要する問題を十分檢討し，3月上旬の第2回會合でそれぞれ研究問題の分擔を決定して，テレビジョン技術の向上へその巨歩を踏み出した．

生研からは上記の如く星合教授が第1分科會の主査として活躍されるほか，高木教授が總幹事として，また森脇教授は第2，3兩分科會の研究に，菊池教授は第4分科會に，齋藤助教授は第3分科會に，それぞれ參加して，今後の活躍が期待されている．(Y.M.)　(27. 3.11)

部外活動

——寄稿——

◇助教授　末岡清市　助手　佐藤正千代「On the Stark Effect of Helium in Strong Electron Field (II)」Jour. Phys. Soc. Jap. Vol. 6, No. 6, (1951)
◇助教授　松永正久　日本電子工學研究所　伊藤一男「電子廻析裝置の分解能の向上について」電子顕微鏡總會研究委員會第58回提出資料 1951・12)
◇助教授　松永正久　助手　萩生田善明「電子顕微鏡および電子廻析裝置によるラッピングの研究」　同上　(同上)

——現地實驗——

◇助教授　安藤良夫　助手　高橋幸伯　山口勇男　特研生　尾上守夫　増田聖　飯田國廣「進水時船體應力測定」
日洋丸：日本鋼管鶴見造船所において（1951・12・12）
熱海丸：東日本重工横濱造船所　〃　（1951・12・25）
永兼丸：浦賀船渠浦賀造船所　〃　（1952・1・25）

——講演——

◇教授　森脇義雄「立體回路」，電氣通信學會東京支部主催「通信工業を理解するための數學」講習會．(1952.1.28)
◇教授　後藤以紀「繼電器回路」　同上 (1952.2.29)

——筆者紹介——

◇岡本　舜三　教授（生研）工博　專攻　構造力學，應用彈性學
◇竹中　規雄　教授（生研）工博　專攻　切削工作學　工作機械
◇益子　好三　株式會社　池貝館山製作所精機工場長
◇千々岩健兒　助教授（生研）專攻　鑄造
◇渡邊　仁　助手（生研）專攻　粉體處理
◇川端　弘　大學院特研生　專攻　〃
◇高木　昇　教授（生研）工博　專攻　通信機器，電氣計測
◇丹羽　登　助教授（生研）專攻　通信機，器超音波工學
◇齋藤　成文　助教授（生研）專攻　超音波工學，高周波應用
◇高橋　武雄　教授（生研）工博　專攻　有機工業分析學
◇福田　武雄　教授（生研）工博　專攻　橋梁工學

編集後記

◇4月號の「計算機特輯」の後に地味な研究紹介の本號を讀者の机上に贈る．各編は生產技術の基本に或は最尖端に直結す珠玉編なることは嚙みしめ味わつていただけると思う．著者の最も關心の深いことを綴つてこそ，讀者にとつても最も感銘が深いと思われるが，一方見方が狹いとの批判もある．個を通じて全體をという見方と全體を通じて個をという見方との競合はやはり技術誌にとつても問題である．このような編集方針，さらに本誌の性格や發行の基本問題について最近活潑な論議が展開されている．創刊以來約3年を經た今日，生產技研の機關誌としての本誌をあなたはどう批判されますか？

(G.K.)

編集委員

編集委員長　友田宜孝
編集委員　小川岩雄　渡邊勝　水町長生　石原智男　*桑井源禎　澤井善三郎　野村民也　野崎弘　久松敬弘　*岡宗次郎　星埜和　坪井善勝　星野昌一　松永正久
編集幹事　下村潤二朗
編集室　水野晴明
誠文堂新光社　清水憲一
(*印は當番委員)

豫約申込

本誌はその性格上市販は僅かになりますので直接發行所へ豫約をされるのが便利です。

1年分　1020 圓
半年分　510 圓

豫約の方の送料は發行所負擔

第4卷 第5號　生產研究　定價85圓　地方賣價 90 圓　(郵稅4圓)

1952年4月25日印刷　・1952年5月1日發行

編集者　友田宜孝　東大生產技術研究所　千葉市千葉局内彌生町　電話 千葉 366～370
發行者　小川誠一郎
印刷者　井關好彦
印刷所　大同印刷株式會社　東京都千代田區神田錦町 3～1
發行所　株式會社　誠文堂新光社　東京都千代田區神田錦町 1～5　電話 神田(25) 2126～2129　振替 東京 6294・6567

Printed in Japan